

株式会社東陽テクニカ (東証プライム：8151)

2024年9月期第1四半期 決算説明資料

2024年2月14日

“はかる”技術で未来を創る



1. 2024年9月期第1四半期 決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2024年9月期 業績予想
4. 企業価値向上に向けた直近の取り組み
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

1. 2024年9月期第1四半期 決算状況

✓ 売上高：

・遅延していたAD/ADAS*向け米国大型案件が計上となり、
機械制御／振動騒音事業が大きく伸長

・カーボンニュートラル分野の活況を受けて、
物性／エネルギー事業が引き続き堅調に推移

✓ 営業利益：

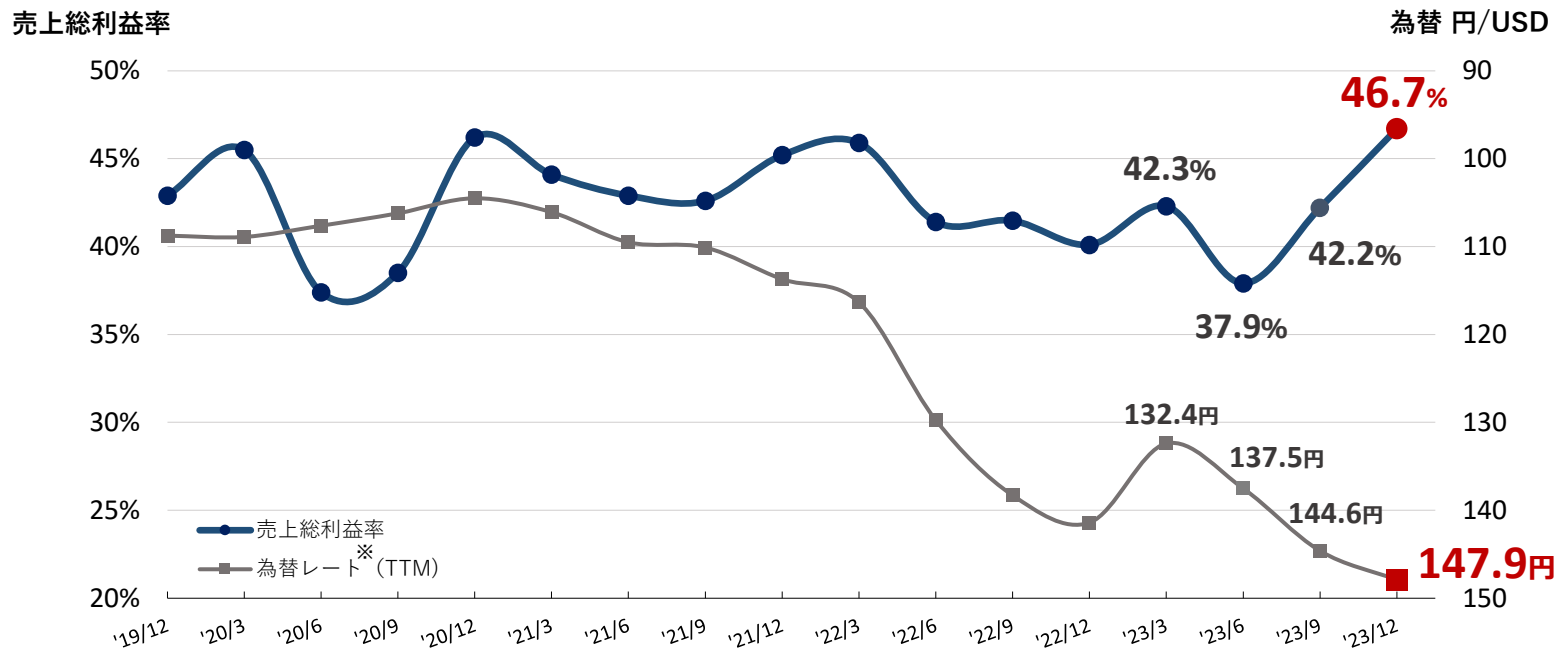
・為替予約により為替変動の影響を抑制

・販管費も前年同四半期並みに推移

(単位：億円)	2023年9月期 Q1実績	2024年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	55.1	69.4	+14.3	+26.0%
営業利益	▲1.6	7.3	+8.9	-
営業利益率	-	10.5%	-	-
経常利益	▲2.6	6.7	+9.3	-
当期純利益	▲1.8	6.5	+8.3	-

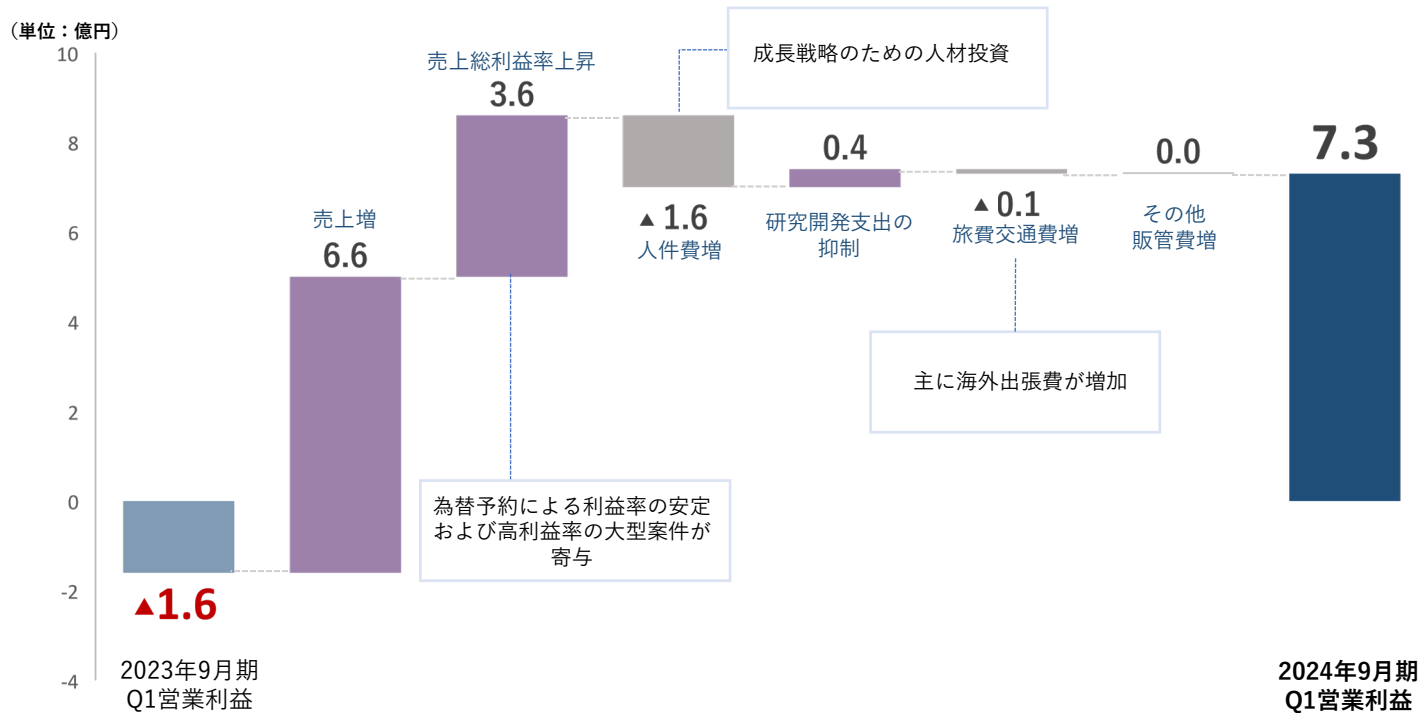
※AD=自動運転 (Autonomous Driving)、ADAS=先進運転支援システム (Advanced Driver-Assistance Systems)

為替は円安傾向が続くが、売上総利益率は高利益率案件の増加により46.7%に上昇



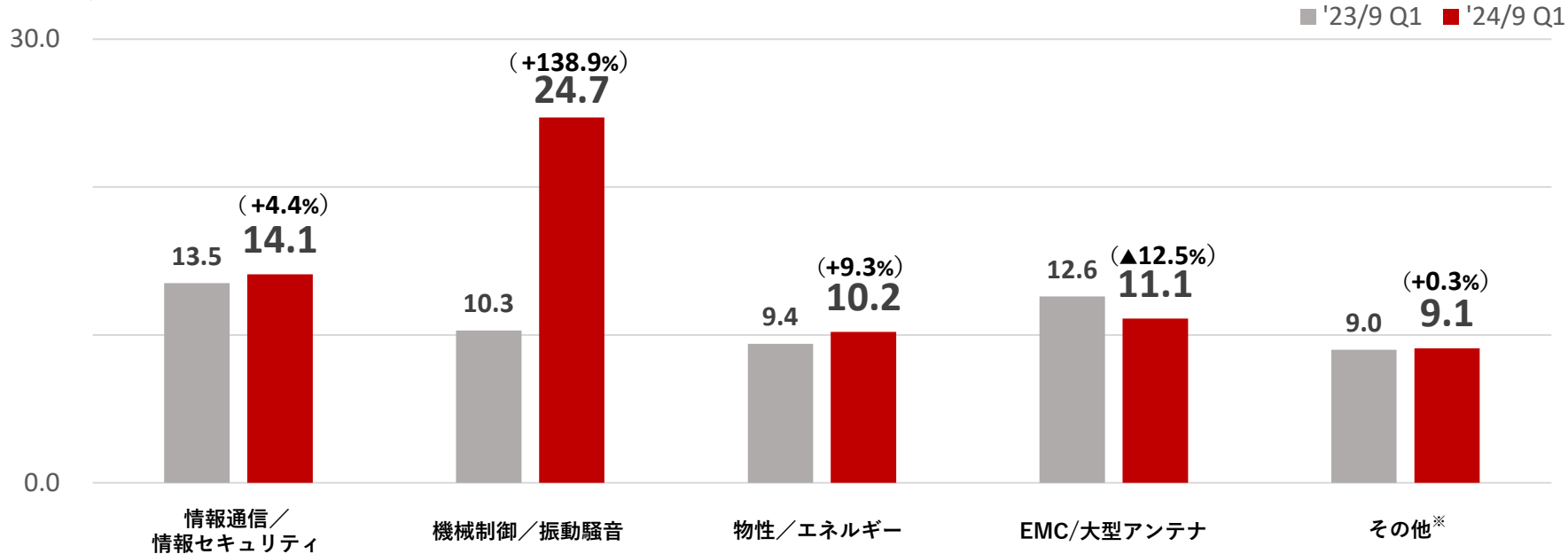
※3ヶ月間ごとの平均レート

売上増、売上総利益率上昇により大幅に営業利益増加



セグメント別売上高 サマリー

(単位：億円)



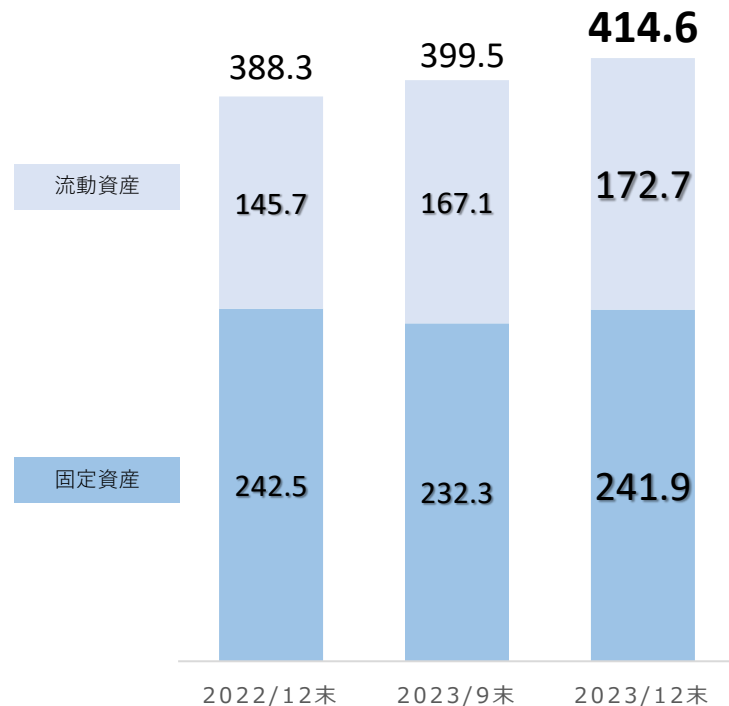
※その他には海洋/特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

セグメント別 売上高／セグメント利益分析

(単位：億円)		2023年9月期 Q1実績	2024年9月期 Q1実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
情報通信／ 情報セキュリティ	売上高	13.5	14.1	+0.6	+4.4%	■クラウドサービス分野のサービスプロバイダ案件が好調に推移 ■情報通信分野の5G商用サービス向け試験や設備需要は引き続き低調
	セグメント利益	▲0.0	0.1	+0.1	－	
	利益率	－	0.7%	－	－	
機械制御／振動騒音	売上高	10.3	24.7	+14.4	+138.9%	■米国AD/ADAS開発向けの大型案件が納入となったことにより、 売上高、営業利益ともに大幅に増加 ■価格改定の見直しや高利益率案件の計上等により、利益率も大きく改善
	セグメント利益	0.4	8.8	+8.4	+1923.7%	
	利益率	3.9%	35.6%	+31.7P	－	
物性／エネルギー	売上高	9.4	10.2	+0.8	+9.3%	■自社開発製品を含む次世代電池開発用測定システムや基礎電気化学測定 システムが好調に推移 ■売上高、セグメント利益ともに増加
	セグメント利益	▲0.3	0.2	+0.5	－	
	利益率	－	2.0%	－	－	
EMC／ 大型アンテナ	売上高	12.6	11.1	▲1.5	▲12.5%	■中国のコロナ感染鎮静化により出荷が増大した前年同四半期に比べ、 売上高が減少 ■自社開発投資の完了により販管費が減少し、セグメント利益は増加
	セグメント利益	0.6	1.0	+0.4	+59.1%	
	利益率	4.8%	9.0%	+4.2P	－	
その他	売上高	9.0	9.1	+0.1	+0.3%	■ソフトウェア開発支援事業で引き続きゲーム関連ビジネスが堅調に推移 ■海洋／特機事業で大型案件を計上した前年同四半期に比べ売上高が減少 したほか、販売拡大に向けた先行投資に伴い販管費が増加
	セグメント利益	1.0	0.8	▲0.2	▲17.1%	
	利益率	11.1%	8.8%	▲2.3P	－	

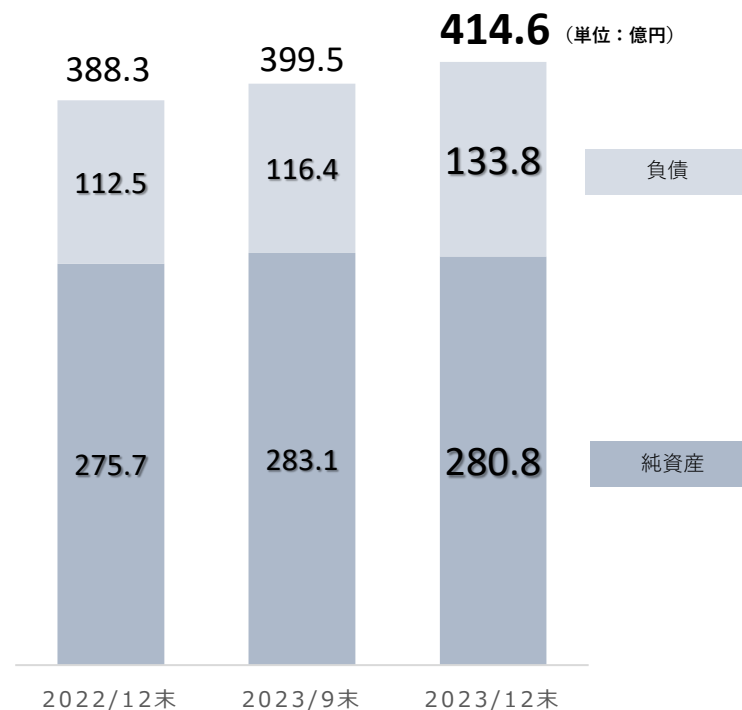
総資産

- 「のれん」「商品及び製品」「建設仮勘定」の増加
- 「投資有価証券」「受取手形、売掛金及び契約資産」の減少



負債・純資産

- 「短期借入金」「支払手形及び買掛金」の増加
- 「繰延ヘッジ損益」「利益剰余金」の減少による純資産の減少



2. 受注高・受注残高

✓ **受注高：**

- ・海洋／特機事業が大型案件を受注したことにより大幅に増加したものの、機械制御／振動騒音事業で前年同期に大型案件を受注していたこともあり、前年同期並み

✓ **受注残高：**

- ・当期に大型案件の納入があったもののさらに受注が積み上がり、過去最大の受注残高を継続

(単位：億円)	2023年9月期 Q1実績	2024年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
受注高	77.4	75.7	▲1.7	▲2.3%
受注残高	177.8	190.9	+13.1	+7.4%

セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：億円)		2023年9月期 Q1実績	2024年9月期 Q1実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
情報通信／ 情報セキュリティ	受注高	16.8	16.8	+0.0	+0.3%	■情報通信分野では、5G商用サービス向け需要の低迷が続き、受注高・受注残高ともに前年同四半期並み
	受注残高	29.7	33.2	+3.5	+11.8%	■情報セキュリティ分野では大型案件の受注があった前年同四半期に比べ受注高が減少
機械制御／振動騒音	受注高	20.4	14.0	▲6.4	▲31.3%	■大型案件の受注があった前年同四半期に比べ受注高が減少
	受注残高	35.1	25.6	▲9.5	▲27.0%	■当期に米国でのAD/ADAS開発向けの大型案件が納入となったことで受注残高も減少
物性／エネルギー	受注高	22.0	23.5	+1.5	+6.7%	■基礎電気化学測定システムの受注が堅調に推移
	受注残高	50.8	72.9	+22.1	+43.3%	■航空機電動化向け評価ベンチの大型受注を獲得し、受注残高が大幅に増加
EMC／ 大型アンテナ	受注高	10.6	7.9	▲2.7	▲25.9%	■EMC分野の受注は円安の影響で価格競争厳しく低調に推移
	受注残高	41.6	28.3	▲13.3	▲31.8%	■マーケット横ばい傾向の中、今後は自社開発品の投入で競争力を強化
その他	受注高	7.4	13.3	+5.9	+77.8%	■特機分野で大型案件を受注したことにより、受注高・受注残高とも大幅に増加
	受注残高	20.4	30.7	+10.3	+50.4%	■引き続きゲーム関連ビジネスが堅調

3. 2024年9月期 業績予想

現時点で公表値修正無し、計画達成に向けて順調に進捗
 売上高・営業利益・経常利益・当期純利益ともに前年比大幅に増加を予想

(単位：億円)	2022年9月期 実績	2023年9月期 実績	2024年9月期 業績予想	前年比	
				増減金額	増減率
売上高	264.9	281.7	320.0	+38.3	+13.6%
営業利益	23.3	14.7	30.0	+15.3	+103.8%
営業利益率	8.8%	5.2%	9.4%	+4.2P	—
経常利益	27.7	18.0	32.0	+14.0	+77.7%
当期純利益	19.1	15.3	23.0	+7.7	+49.9%
ROE	6.5%	5.3%	8.0%	—	—

✓ **中計“TY2024”目標売上高を上方修正、売上高320億円へ**

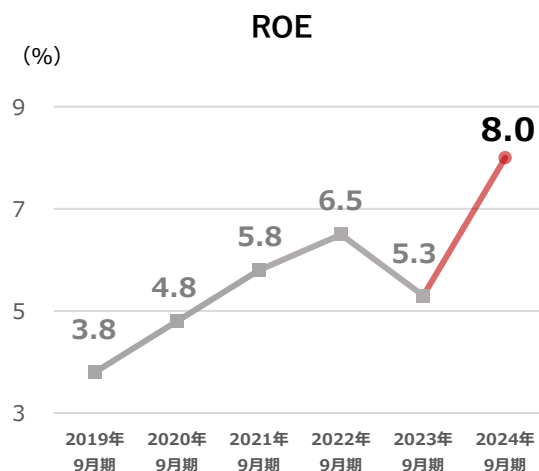
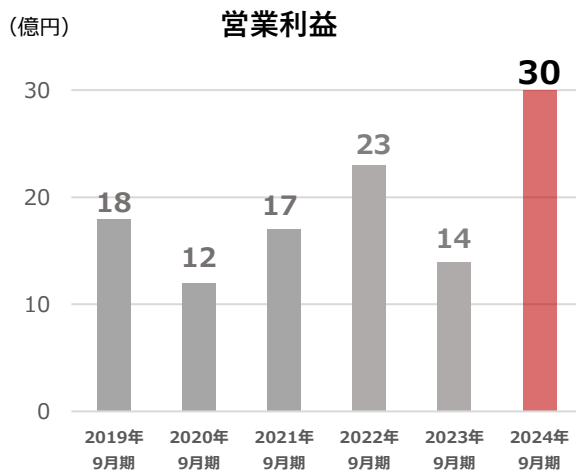
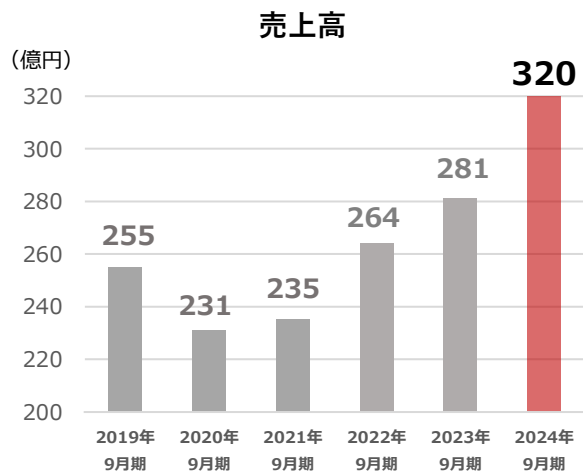
- ・好調な物性／エネルギー事業のさらなる拡大、積極的なM&Aによる売上拡大へ

✓ **営業利益予想は中計目標未達も前年比倍増へ**

- ・円安の継続による仕入額の上昇、成長投資のための人材確保による販管費増加で中計目標35億には届かずだが売上の拡大と高利益率案件の拡充により営業利益は前年比204%を予想

✓ **目標値ROE8%は必達**

- ・当期純利益の拡大と積極的な株主還元による自己資本のスリム化を引き続き推進



4. 企業価値向上に向けた 直近の取り組み

Rototest International AB (スウェーデン) の100%株式取得による子会社化 (株式取得日: 2023年11月30日)

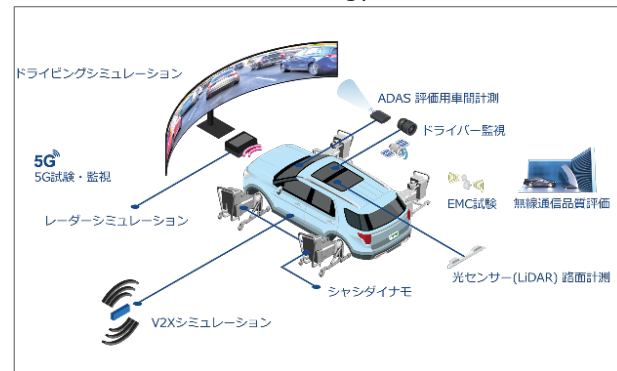
【機械計測/振動騒音事業】



- 2016年に代理店契約を締結し、ハブ結合式シャシダイナモメーターシステム「ROTOTEST Energy」を販売開始
- 本システムとレーダーシミュレーターやカメラシミュレーターを組み合わせ、自社開発した統合システム「ドライビング&モーションテストシステム(DMTS)」を提供中
- 本子会社化により、シャシダイナモメーターシステムも自社製品となり、自社開発製品「DMTS」のさらなる機能拡充や性能向上を図り、自動車産業における開発サイクルの短縮化に貢献する
- 日本や米国だけでなく、中国や欧州においても販売実績が豊富な同社を活用することで、当社の自動車開発・試験ソリューションをグローバル市場に向け積極的に展開



「ROTOTEST® Energy™」使用イメージ



「ROTOTEST® Energy™」を含めた「DMST」概要

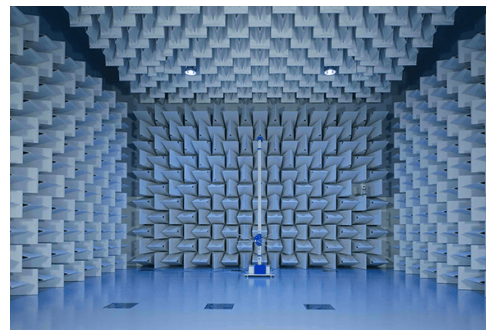
トーキンEMCエンジニアリング社の100%株式取得による子会社化（株式取得日：2024年1月1日）

【EMC／大型アンテナ事業】

- EMC試験の受託サービスをはじめとする製品の海外認証取得支援サービスを主力事業とし、両社ともに米国試験所認定協会より認定を受けた**高精度な校正サービスも展開**
- 国内3か所に計測センターを保有し、大型の10m法電波無響室を各センターに計4基所有
- 本子会社化により、両社の知見・技術力を集結し、電波計測における**先進的なソリューション開発の推進、施設の有効運用、認定校正サービス**の事業拡大を図る
- 2024年1月より**東陽EMCエンジニアリング**に名称変更し、本社を当社本社ビルに移転



筑波計測センター



関西計測センターの電波無響室



川崎計測センターの電波無響室

5. 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けて

直近5年間の指標の推移

- ROEは株主資本コストを下回る状況が継続
- PBRは概ね1倍弱の水準で推移していたが前期は1倍を上回る

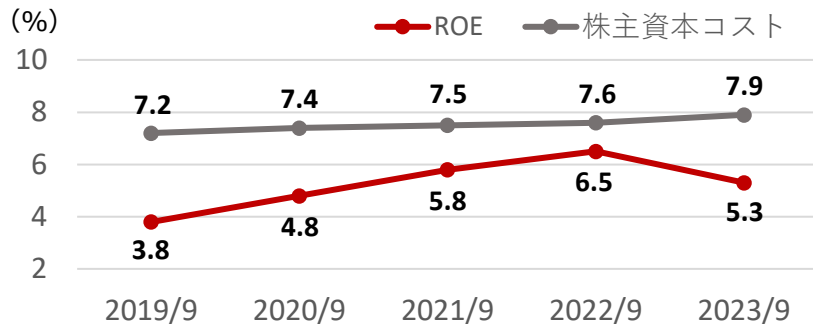
株主資本コストを上回るROEを実現し
株価およびPBRを高めていく経営方針

2024年9月期のKPI

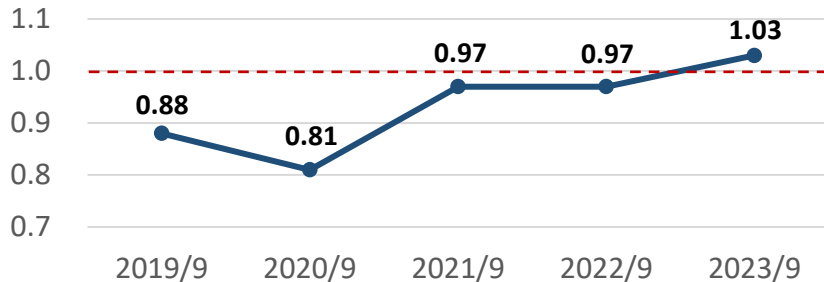
ROE 8.0%以上

- 中期経営計画“TY2024”の指標として掲げてきたROE 8.0%を達成し、株主資本コストを上回るROEを目指す
- ROE 8.0%は通過点であり、今後もROE、PBR改善への取り組みを通じて企業価値の向上を図る

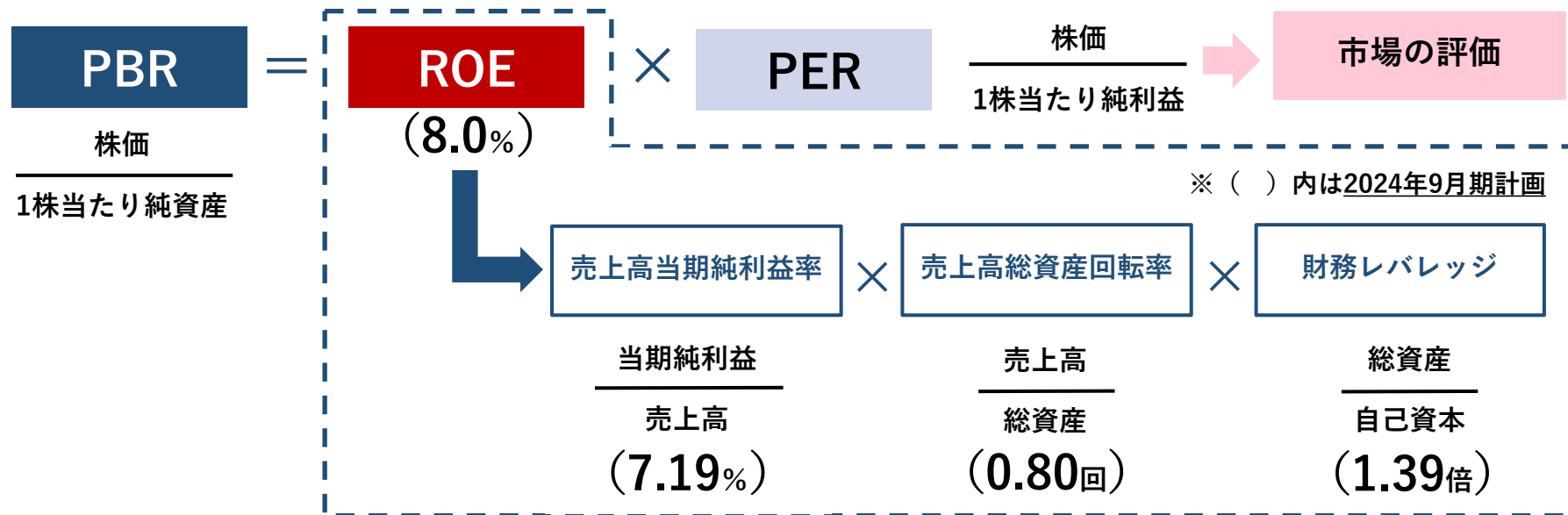
ROEと株主資本コストの推移



PBRの推移



企業価値のKPIの一つであるPBRを高めるには



ROEの3要素とPERを高めることでPBRを改善するとともに、企業価値の向上を図る

構成要素ごとに各施策を推進

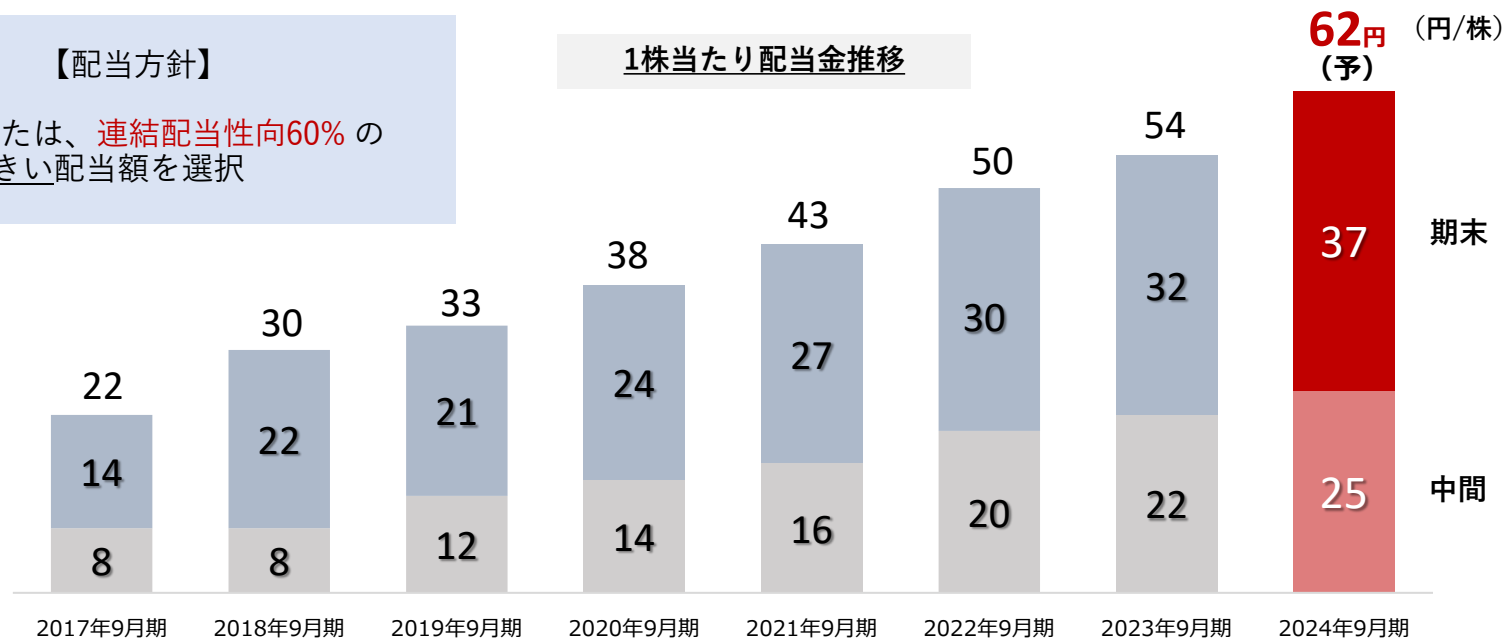
ROE	売上高 当期純利益率	当期純利益	<ul style="list-style-type: none"> 売上拡大と案件ごとの粗利の精査による利益率向上 為替予約による為替リスクの低減 業務効率化などによる販管費の削減
		売上高	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラル関連などへのリソース投入による成長事業の拡大
	売上高 総資産回転率	売上高	<ul style="list-style-type: none"> 付加価値創出による競争力の向上 人員増による営業力強化
		総資産	<ul style="list-style-type: none"> 在庫の適正化による資産の圧縮 保有資産の見直しによる資産効率の向上
	財務レバレッジ	総資産	<ul style="list-style-type: none"> 成長投資に向けた有利子負債の活用
		自己資本	<ul style="list-style-type: none"> 自己株式の適宜取得を含む株主還元の強化
PER		市場の評価	<ul style="list-style-type: none"> 業績の向上とそれに伴う株主還元の拡充 適切な情報開示と国内外の投資家との対話の強化 ESGの取り組み強化

毎年継続的に増配を実現、今期も最高額での配当を予想

【配当方針】

DOE※4% または、**連結配当性向60%** のいずれか大きい配当額を選択

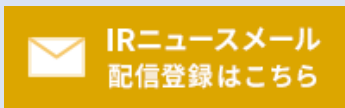
1株当たり配当金推移



※DOE (自己資本配当率) = 年間配当総額 ÷ 自己資本

IR ニュースメール

<https://www.toyo.co.jp/ir/mail-magazine/>

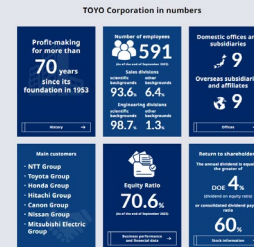
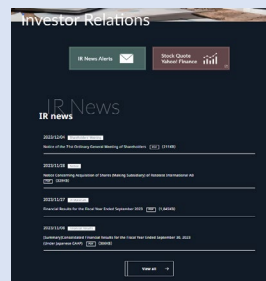


当社のIR情報をタイムリーにメールでお届けいたします
ぜひご登録ください

IR サイト

<https://www.toyo.co.jp/english/ir/>

英文コンテンツを
拡充いたしました



本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先
株式会社東陽テクニカ
経営企画部
toyo-ir@toyo.co.jp